

「バンングラ」魅力知って

1年の国際支援来月中区で報告

浜松国際交流協会は6月1日、バンングラデシュで国際協力活動に1年間携わった静岡文化芸術大3年の稲川望さん(21)が、浜松市中区IIの報告会を同区のクリエート浜松内の市多文化共生センターで開く。稲川さんは「人懐こい住民ばかりで魅力的なバンングラデシュのことを知ってもらいたい」と話す。



報告会のチラシを手にする稲川さん(浜松市中区)

生活や難民問題語る

稲川さんは昨年3月から今年2月まで、現地でストリートチルドレンを支援するNGO「エクマツト」でインターンシップを行い、生活施設の運営などに関わった。日本人が地元の大学生とともに2003年に設立した同NGOは昨年に教育施設を新たに開校するなど、支援態勢を広げているという。会では活動内容や現地の人との関わりについて紹介するほか、バンングラデシュに避難しているロヒンギヤ難民の現状についても報告する。

開催は午前10時～正午。参加無料。定員40人で先着順。申し込み、問い合わせは同協会

△電053(458)2170へ。
(浜松総局・市川淳一朗)